

“一 A 就 B”形式の構文的意味

島 津 幸 子

1. はじめに

現代中国語には“一”が動詞句（または形容詞）に前置される“一 A 就 B”という形式がある。この形式の文については呂叔湘主编 1980 (526-527 頁) に倣って概ね2つのタイプに分けることが行われてきたようである。筆者も島津 2004bにおいてこれを次のように2つのタイプに分けた¹⁾。

①タイプ（「出来事継起型」）は次のように「2つの出来事がごく短い時間間隔をおいて継起する」と捉えられるものであった。

- (1) 我赶紧撩起衣服，让她们往我背心上写字。她们一写完就走了！ [一]
- (2) 乔亮从刘玉芳那里回来，就奔了车间。一进车间，就看见小郑跟小王正在吵吵嚷嚷说什么呢。[车]

②タイプ（「意味拡張型」）ではA、B 2つの事態は「2つの出来事の継起」とは捉えにくい。実際の文はその形式も含め、次のように多様である。

- (3) 我一病倒，凤霞可就苦了，床上躺着两个人，她又服侍我们又要下地挣工分。[活]
- (4) 我跟你们这帮人打过交道，琵琶坊的小翠和莉莉在扫黄时总是要我的车。领着嫖客，一开就开到野外去了。[在]
- (5) 马嫂子眉头立即被笑意包围，说：“够够够，足够了。你是个痛快人。哎，我说吧，你一想就想通了，是不是？[在]
- (6) 我是一个极平凡的人，这种人在街上一抓就是一把，论个头我没个头，长相一般，学历平平，能力平平，不过是个电工。[周]
- (7) 肖科平站起来，拿起钢丝拢子梳头。“这小韩一看就特轻浮。”[无]

前掲論文では“一”的意味機能について「事象のごく開始部分に焦点をあてて最小量を取り出す役割を果している」と述べたが、この現象の背景に何があるのかについては触れることができなかった。本稿では、通常の動量表現との違いがどこにあるのか、という観点から“一”的意味機能について再検討し、その違いを文中で占める文法的位置の違いに求める。もう一つの構成要素“就”的意味機能については、呂叔湘主编 1980 の第一項のそれを時間副詞、第二項のそれを語氣副詞とみなすのが一般的である。本稿では、“就”が「限定」の機能を果たすと考えることで、時間副詞と語氣副詞の間の関連性を解く必要がなくなること、王弘宇 2001 のいわゆる「中間項飛び越え」説を若干修正し、これを以って説明できなかった例についても説明が可能になることを示す。さらに、「内在的関連性」という意味が構成要素“一”と“就”に由来することを述べる。当該形式の文は形式をも含めて多種多様であるが、最後にその意味拡張の様相を概観する。“一 A”が「背景化」の傾向をもつことと後件が話し手の観察結果であるという観点を導入することにより、このような多様性を呈する理由について一定の説明を与えることができる事を示す。

2. “一”的意味機能

“一 A 就 B”形式における“一”について、島津 2004b では「事象のごく開始部分に焦点をあてて最小量を取り出す役割を果している」と述べた。現象としてはそのように考えられる²⁾が、なぜそのような現象が起るのかについては触れることができなかった。本節では、動詞の前方という文法的位置を占めることから、“一”は通常の動量表現ではなく、連用修飾成分であると捉え、「ひとたび起るという起り方で」事態が起ることを表していることを述べる。

李宇明 2000 (180-181 頁) は「動量」を表す「“一” + 動量詞」が VP に前置される場合と VP に後置される場合の違いを考察している。「“一” + 動量詞 + VP」と「VP + “一” + 動量詞」は、多くの場合相互に変換できず、変換できる場合も両者の意味が異なることを指摘する。“一把抓过来”はスムーズな変

“一 A 就 B” 形式の構文的意味

換とはいえないものの、“抓过来一把”に変換できるという。前者の「“一” + 動量詞」は動量を表す機能をもつだけでなく、むしろ動作のすばやさを表すことを主な機能とするのに対し、後者には「すばやい」という意味はもはやなく、「一把」は純粹な動量表現であり、数詞も“一”に限られない、と述べている。

李宇明 2000 の以上の考察が示すのは、「“一” + 動量詞」はまさに「動量」を表すフレーズだが、それでも動詞の前の位置に現れれば数詞は“一”に限られ、単なる動量を表すというよりはむしろ「動作のすばやさ」を表す機能を獲得している³⁾、ということである。形式に何らの違いもない、同一の「動量」表現が表すこの違いは、唯一の相違点、すなわち動詞の前と後ろという文法的位置の違いによってもたらされていると考えられる。

“一 A 就 B” 形式における“一”的意味機能を考えるにあたっても、この「文法的位置のもつ意味」ということは大変有効な概念である。通常、動詞の前には動作の様態を表す修飾成分が生起し、動詞の後ろには動作の結果を表す成分が生起することが知られている。

(8) 尽管大家在一旁吵吵嚷嚷，可是老李却若无其事地读着书。

(9) 我不知道怎么做，只好呆呆地站着。

例 (8) (9) では修飾成分“若无其事地”、“呆呆地”が動詞句の前に置かれている。(8) では老李が「平然と」本を読んでいる様子を描写しており、(9) では私が「ぼーっと」立っている様子を描写している。動詞の前に置かれたこれらの修飾成分は動作の様態や動作に伴う動作主体の態度を表す。

(10) 把绷带缠紧点儿！

(11) 同学们已经记住了那些生词。

例 (10) は「包帯を巻い」たその結果「きつめに」巻かれた状態にするよう頼んでいる。(11) は「同級生たちが新出单語を覚える」作業をし、その結果「しっかりと頭の中に記憶された」ことを表している。いずれも補語のかたちで動詞の後ろに置かれた成分が動作の結果の状態を表している。

このように、動詞の後ろの位置が結果を述べるためのものであるのに対し、動詞の前の位置は、通常動作の様態、起り方を表す意味をもつ。「“一” + 動詞」

も通常の連用修飾成分と同様の働きをしていると考えられ、「動作や状態がひとたび現れるという起り方で起る」という意味を表すという解釈が妥当だと思われる。そもそも動詞に前置される“一”が動量詞を伴わない形式であることもこのことを明示していると捉えるべきであろう。「事態がひとたび現れるという起り方で起る」ということをアスペクト的に見ると、「動作なし」から「動作あり」、「状態なし」から「状態あり」への「変化」（「点」的事象）だということになる⁴⁾。ある事態を叙述するのにそれを「点」状を呈する「変化」事象として捉えることは、とりもなおさず「事象の開始部分の最小量（=点）を取り出す」ことにほかならない。また、“一”についての殷志平1999（119頁）の「開始点を明示するのみであって事態開始後の状況については観察せず、事態それ自体は終わるかもしれないし、続くかもしれないが、話し手は終了するか継続するかには関心を寄せない」という指摘もこのことを指しているものと考えられよう。

3. “就”的意味機能

3.1 “就” = 時間副詞への疑問

“一”的意味機能が注目を集めてきた⁵⁾のに比べると、当該形式における“就”が表す意味についてはこれまであまり言及されてこなかったといえる。一般には呂叔湘主编1980の第一項のそれは「すぐに」という意味を表す時間副詞、第二項のそれは語氣副詞であるという捉え方をされる⁶⁾。

李宇明2000（189-190頁）は(12)bのVP間の「瞬接性⁷⁾」が(12)aのそれに明らかに及ばないことを例に挙げ、続けて次のように説明する。

(12) a 心里一烦躁就写日记，一写日记就心里烦躁。

b 心里烦躁就写日记，写日记就心里烦躁。

“一VP₁就VP₂”の2つのVP間の「瞬接性」はまぎれもなく“一”と“就”的両方によって担われているものの、“一”があれば“就”がなくとも2つのVP間には「瞬接性」があるのに対し、“一”が現れない場合には、たとえ“就”

“一 A 就 B” 形式の構文的意味

があったとしても VP 間の「瞬接性」の意味は明らかに弱まる。

李宇明 2000 の上記の指摘は、当該形式における“就”が「すぐに」という意味を一義的に表しているのではないこと、当該形式の文が 2 つの事態発生の時間間隔が非常に短いことを表す場合、その意味が生じるのに“就”よりもむしろ“一”が貢献していることを示すものといえる。

また、2 つの出来事の発生の時間間隔が短い、と感じられない例もある。

(13) “谁让你不理我的？”“谁先不理谁的？一回来你就先不理我，跟你说话没听见一样。我能没气么？[过]

(14) 我已经不是青年了，但我身上仍流动着热血，仍爱激动，这些，我一想到你、马青、杨重这些可爱的青年，我就不能自己，就睡不着觉。
[顽]

(15) 二喜是实心眼，他拉着板车走时，还老回过头去看看他的新娘，一看到凤霞扭着身体朝我们哭，他就不走了，站在那里也把身体扭着。
[活]

また、(16)～(18) のように「すぐに」という意味を表す時間副詞“立即”や“立刻”と共に起している例が見られる。

(16) 但一谈到生意钱财就会立刻变得冷若冰霜、锱铢必较，有时还会吵得面红耳赤、破口大骂。[浮]

(17) 小梅一听立即就傻了。[程]

(18) 李白玲一抬手，服务员就立刻过来俯身侍候。[橡]

“就”が「すぐに」という意味を表す時間副詞だとすれば、なぜ同様の意味を表す時間副詞と共に起する必要があるのか甚だ疑問である。

3.2 “就” = 「限定」

3. 1 では“就”が「すぐに」という意味を表す時間副詞であると捉えることへのいくつかの疑問を挙げた。本節では“就”が表す意味を「限定」と考えることの根拠を示す。

張谊生 2004 (428-430 頁) は文中で発現する“就是”的モダリティ機能について述べ、4 つの意味のうちの 1 つとして「動作行為にかかる時間が長いことを

強調する」ことを挙げ、その多くが“一十V十就是+数量”という形式に用いられることを指摘し、次の2例を挙げている。

- (19) 以前他什么也不怕，现在他会找安闲自在：刮风下雨，他都不出车；
身上有点酸痛，也一歇就是两三天。〔老舍：骆驼祥子〕
- (20) 大连、鞍山、沈阳、辽阳，我竟然一跑就是50多天。〔赵瑜：马家军
調査〕

これらの例に続けて、「こうしたモダリティ化した“就是”は排他性範囲副詞“就是”から発展してきたものであるため、“就是”は強調、反駁或いは肯定を表すと同時に、通常否定性の見込み⁸⁾ (presupposition) を含む」と述べる。ここで取り上げられている“一十V十就是+数量”という形式は“一A就B”形式の第二項（呂叔湘主编 1980、以下同じ）に含まれる。“一A就B”形式の第一項については触れていないが、第二項の語氣助詞とされる“就”が排他性範囲副詞に由来することを示したものと捉えられる。

排他性範囲副詞の“就是”は排他性範囲副詞の“就”に由来する⁹⁾。排他性範囲副詞の“就”については詳細な考察があるので見てみよう。

張谊生 2000 (121 頁) は白梅丽 1987 が同義だとした2つの文(例 (21) ab)について次のような主張を展開している。

- (21) a 他就喝了一杯酒。

- b 他才喝了一杯酒。

2例の表層の意味は一致するが、深層の含意は異なる。(21) a は彼が酒を一杯飲んだだけで他には何も食べなかった、という意味になる。“就”は範囲を限定し、他を排斥することに重点がある。(21) b は彼が飲んだ酒の量が少ないとを意味し、他の何かを食べたかどうかについてはわからない。“才”は数量を強調し、量が少ないとを表すことに重点がある。

また、井田 2003 (193-196 頁) は張谊生 2000 の指摘を踏まえて、“就”的「数量が少ないとを表す」とされる用法が「範囲を確定する」用法の一部であり、「数量が少ない」という意味は範囲を限定する“就”自体からくるのではなく、文脈との関連からもたらされている、と指摘している。“就”的基本的意味が

“一 A 就 B” 形式の構文的意味

「範囲限定」であることを裏付けるため、次の例を挙げて、「自者」の数量が「他者」よりも少ない¹⁰⁾ という場面設定とは異なる場面設定が“就”的生起を許容することを明示している。

(22) a 这个药就吃两个，一个、三个都不行。

b 他平时饭量很大，但不知为什么，今天才吃（了）两个。

张谊生 2000 も井田 2003 も“就”を“才”と比較し、前者の意味が「範囲限定」であり、「数量が少ない」ということではないことを指摘したものである。

“就”が時間を述べる文脈に用いられたとき、通常それは「すぐに」という意味を表す時間副詞だとされる。しかし、「すぐに」という意味はある時点から起算した時間量が少ないということであり、数量についての張谊生 2000 及び井田 2003 の指摘は、時間量についてもそのまま用いることができる。「すぐに」という意味もやはり文脈からの取り込みによって生じたものであり、“就”はあくまで「限定」の機能を果すという説明が可能なのである。

(23) a 他来。

b 他就来。

c 他马上就来。

(23) a は発話時以降の任意の時間に「彼が来る」という事態が起ることを述べている。(23) b は「彼」のこれから的行为の中で「来る」という行為が排他的に起ることを述べている。つまり、「彼」の次の行為が「映画を見る」や「家の周りを走る」ではなく、「来る」に限定されたということであり、結果的にその行為が発話時現在からそう遠くない未来に実現されることが含意される。「すぐに」という意味が読み取れるとしたら、それは「排他的限定」という“就”的意味からこの文にもたらされた語用論的含みに過ぎない、と考えるわけである。(23) c では“就”と“马上”が共起しているが、“就”が「すぐに」という意味を表すと解釈すると同様の意味を表す“马上”と自然に共起することに合理的な説明を与えることが難しい。(23) b “他就来。”が表す「彼はすぐに来る」という意味が、前述のように語用論的含意に過ぎないとすれば、「彼が来る」具体的な時間を明示するための“马上”が“就”と共に起ることに何の矛盾も

ないことになる。

“一 A 就 B” 形式における “就” が第一項では時間副詞、第二項では語氣副詞と捉えると両タイプの “就” 相互の繋がりが不明であるが、“就” = 「限定」と想定することで、その問題は解消され、両タイプの文の意味は1つの構文的意味から統一的に説明され得る。

3.3 王弘宇 2001 「中間項飛び越え」説

王弘宇 2001 は “一…就…” 形式についての呂叔湘主编 1980 の解釈「ある動作や状況が現れた後に引き続き別の動作または状況が起る」を正しいと認め、その解釈に合致するにも拘らず不自然な例があると指摘して次の例を挙げる。

(24) 下了课以后我一去食堂就吃午饭。

さらに、深いレベルでの実現条件を提示し、当該形式は、A、B、C の3項が存在する状況で前項 (A) が通常あるべき中間項 (B) を飛び越え、後項 (C) と繋がる場合に初めて用いられる形式であると提起した。

(25) 我一下课（不做其他）就去食堂吃午饭。

(24) は (25) のように修正すれば自然な文になるという。括弧内の「他のことはせず」が示すように「中間項の飛び越え」があり得るからだというわけである。

“就” = 「限定」と捉えることは、王弘宇の「中間項飛び越え」説に修正を迫ることになる。「A – B – C」という序列から中間項 B を排除するのではなく、「A – B / B₁ / B₂ / B₃ …」という序列から B と範列的関係にある他の項を排除し、B のみをとりたてる、と考えることになるからである。前掲の例 (24) の文は文法性に問題はないが、語用論的には確かに不自然である。この文は留学生による作文であり、食堂は学校内のそれであろうが、“吃午饭” と範列的関係にあると考えられる “吃早饭”、“吃晚饭” などは “下了课以后” という時間設定からみても想定しにくい選択肢である。“就” がとりたてる “吃午饭” を「自者」とみた場合、想定できる「他者」をもたないために文が不自然になるのだと考えられる。一方、例 (25) は “去食堂吃午饭” と範列的な関係にある事象は他にいくらでも考えられ、王弘宇 2001 (138 頁) が挙げる「先生に授業の内容に

“一 A 就 B” 形式の構文的意味

について質問する」、「一度宿舎へ戻る」という事象も十分考慮の範囲内にある。

王弘宇 2001 (139 頁) は「中間項飛び越え」説を適用できない、として次の 2 つの例を挙げている。

(26) 水一到零度就结冰。

(27) 一到十八岁就有选举权。

この 2 例も “就” = 「限定」という視点から見れば、“结冰”、“有选举权”と範例的な関係にある他の事象¹¹⁾ を排除し、これらに限定する、と考えることはきわめて自然であるため、例外的な文として扱う必要はなくなる。

4. “一 A 就 B” 形式の 2 つの事態に見られる内在的関連性

島津 2004b では “一 A 就 B” 形式の文は A、B 2 つの事態の間に内在的な関連性が存在し、単に発生時間が近接しているというだけの 2 つの事態の叙述には用いられにくく、その点、“刚 A 就 B” 形式の文とは対照的であることを述べた。内在的関連性についてここで簡単に説明しておく。

(28) 没想到，他们刚一回去，老队长就被揪了出来。[杨啸：岩画探奇]

(28) は邢福义 2001 (271-272 頁) が挙げた文である。“他们刚回去，老队长就 …” は言えてもとの意味に合致するが、“他们一回去，老队长就 …” とすると、もとの意味と違ってくる、彼らが帰ったことと老隊長がつかまつたこととの間に何らかの内在的関連性が生じるようだ、と指摘している。

また、次の例では A、B は偶然継起した事態であり、両者の間に内在的関連性は認められない。

(29) 印家厚父子刚赶到车站，公共汽车就来了。[烦]

(30) 小莫刚放开沃克，门就被踢开了，闯进来四个男学生，也不开口说话，揪住沃克就打。[我]

上記の二例の文中の “刚” を “一” に置き換えることはできない。時間の近接性を満たすだけの 2 つの事態の叙述が “刚 A 就 B” 形式の文では許容されるのに対し、“一 A 就 B” 形式の文では許されず、通常 A、B 間に内在的関連性が

なければならないという事実は何を意味するのか。“剛 A 就 B” 形式の“就”は「限定」機能をもたないのだろうか。そうではなく、いずれの構文の“就”も「限定」機能をもつと考えられる。2つの構文のこうした違いは、従属節に生起する要素の違いによって生じたものであろう。“剛 A 就 B” 形式では「ほんの少し前に起った」ことを表す“剛”が従属節に生起していることにより、「時間」という側面から事態 B への限定が行われ、A、B 2つの事態は時間的近接性という条件さえ満たせばよい。一方、“一 A 就 B” 形式の従属節には“一”があり、動詞に前置され、「ひとたび起るという起り方で(起る)」という意味を表す。「ことがらの生起」という側面から事態 B への限定が行われることになり、A、B 2つの事態に内在的関連性が求められるのである。内在的関連性とは単に時間という一つの側面からの限定ではなく、ことがらをことがらそのものとして限定した結果生じる意味だと考えるわけである。

ここでは、恒常的事態の叙述と未然の事態の叙述の文が内在的関連性を顕在化させることを確認しておく¹²⁾。

(31) 母亲一遇上要对儿子表达感情的细节时就会忘记是否伤害了别的人。

[去]

(32) 年纪一大，人就不行了，腰是天天都疼，眼睛看不清东西。[活]

(33) 他有个习惯，脑子一累就想听音乐。[走]

上記の例は恒常的事態の叙述に用いられ、文全体は一般論 ((31) (32)) や個人の習慣 ((33)) を述べている。未然の事態を叙述する場合、文は次の例のように「A が起ったら B する / B せよ / B するだろう」といった意味を表す。

(34) 您回家休息去吧，我带几个人在这儿盯着，一有情况就通知您。[人]

(35) 小贩拿了钱，望着过马路而去的黄苏子，叫喊道：“你一穿就会晓得、绝对比你现在性感。”[在]

恒常的事態、未然の事態を叙述する場合、条件文的な読みが生まれ、内在的関連性がより顕在化するのが分かる。

5. “一 A 就 B” 形式の文の意味拡張の様相

“一 A 就 B” 形式の文、特に②タイプは形式も含めて多種多様である。しかし、事態 A の「背景化」という概念と後件が（話し手の）観察結果であるという観点を導入するとなぜ②タイプが多様性をもつのかということをある程度説明できることを本節では述べる。

当該構文において事態 A は “一 A” という形で提示される。これは前述のとおりアスペクト的にいえば「変化」、「点」的事象である。殷志平 1999 (119 頁) は “一” を「始点アспект」であるとし、開始点を明示するだけで事態開始後の状況については観察しない、と指摘したが、これは「点」で表される「変化」事象の表現効果における表れを捉えたものと見ることができる。

文連結における「背景化」の問題について、坪本 1998 (137 頁) は、人間の認知的、知覚的観点からみて、現に進行中の出来事やまだ仮定の段階にある出来事よりもすでに過去において生じた出来事が、また、完結していない出来事やまだ進行中の出来事よりも完結した出来事が「前景」とされやすいことを指摘する。そもそも複文においては、通常、従属節が背景、主節が前景と捉えられるが、“一 A” という形式は、それ自身「背景化」しやすい傾向を構造として内包しているといってよさそうである。

事態 A が背景化している 1 つの例として事態 B に人の心理を表す動詞が生起する例を見られたい。

- (36) 两个女人一看到马锐大热天戴了顶帽子就起了疑，揭下来一看，发现
了那个伤口。[是]
- (37) 张怀雅尽管当了一辈子医生，见过了无数残酷的场面，可一想到女儿
出事就受不了。[去]

次は事態 B が状態を表している場合である。

- (38) 母亲一离开，刘护士就没有了笑脸。[去]
- (39) 毛嫂的儿子原是化工一厂的工人，工伤住了医院，现在企业一兼并，
就没人管，医药费也不报销了。[城]

(36)～(39)の例では、事態Aは事態Bの状態、心理状態を引き起こした「誘因」という意味役割を担っている。

事態Aの「背景化」がかなり進んだ例として、従属節に“这么（这样）一来”が生起するものがある。事態Aは動作ではなく、ある状態を表している。

(40) 先前她在床上呆着从不说什么，这么一来她可就难受了，腰也酸了背也疼了，怎么都不舒服。[活]

(41) 随着年龄的增长，黄苏子越来越不爱说话，也不好活动，甚至连笑也非常非常之少。这样一来，她也就没有什么朋友。[在]

また、事態Aが何の動作も何の状態も表しておらず、「始めからBだった」という意味を表す例もある。

(42) “炮轰派”的最终失败，几乎可以说是不言而喻的，因而它的英雄主义一开始就闪耀着悲剧精神。[一]

(43) “这儿，还晕么？”“早没事了。”马林生笑着说，“一开始就没事，我根本没喝多。”“得啦，昨晚谁又吐又闹的？”[是]

“一A”が内包する「背景化」の傾向が、動詞の実質義が薄れていくという面に表れたのが、前後2つの節に生起する動詞が同一の“一V₁就V₁P”形式の文である。これは、呂叔湘主编 1980では「動作がいったん発生するとある程度に達するかある結果を得る」と解釈される第二項に分類される。

(44) 凤霞看到邻居的女人坐在门前织毛衣，手穿来插去的，心里喜欢她就搬着把凳子坐到跟前看，一看就看半天，人都看呆了。[活]

(45) 最后还是实权领导点了名。领导一点就点到了黄苏子的处长头上了。
[在]

この形式の文では、実際には事態Bという動作結果があるに過ぎない。Aが表す動作はBという結果をもたらす原因としての動作である。「動作+結果」の動作を“一A”的Aにあてるということは「開始の境界線」を取り出すことであり、動作とその結果の間に擬似的な切れ目を生じさせることである。一方で擬似的な切れ目を生じさせておきながら、一方で両者の必然的な結びつきを強調することから、様々な含みが生じることになるのであろう。

“一 A 就 B” 形式の構文的意味

当該構文が已然の事態の叙述に用いられた場合、後件では「話し手の観察結果」が述べられる。“一 V 就是 NP” という形式の文があるが、この形式は呂叔湘主编 1980 において “一 V_1 就 $V_1 P$ ” の後ろの “ V_1 ” が省略された形式と規定されている。しかしこの例では省略される前の文を見出しがたい。

(46) 河湾的回流上映着朦胧的月色，苇子丛里蚊子搅成团，手在脸上一抹就是一手血。[河]

(47) 将近 10 点钟，杜梅回来了，大概她在外边看见屋里亮着灯，知道我在家，所以一进屋就是满脸凛然之色。[过]

これらも後件 = 「話し手の観察結果」の叙述ということから自然に解釈できる。次の例では “是” の直前に “净” が生起し、複数回にわたる事象をスキヤニングした観察結果が「～ばかりだ」のように述べられている。

(48) “可我们老吵架。” 她皱着眉头说。“我一想起我们在一起的事就净是怎么跟你吵架，别人也这样么？” [过]

当該形式の文の中には、事態 A の述語が “看” で、しかもその主体が話し手としか考えられないものがある。次のような例である。

(49) “不对，你今天这样子一看就不对，是不是土作组给你房子了？” [走]

(50) 她的打扮一看就是那种爱招摇的不正经女孩，其实服装没什么特别的，连一件时髦的女式军衣都不趁，只是那两把长及肩头的“刷子”具有与众不同的含义。[动]

これらの例は、当該形式が基本的に観察者としての話し手による叙述であることを示唆している。後件で述べられているのは、観察対象となっている人やものの属性である。

6. おわりに

本稿では、“一 A 就 B” 形式における “[一] + 動詞” が通常の動量表現とは異なり、連用修飾成分であること、“就” が「限定」という機能をもつことを述べた。これら構成要素の相互作用によって当該形式の構文的意味は「A がひ

とたび起ると（排他的に）Bが起る（起った）」のように規定されることになる。恒常的事態や未然の事態の叙述に用いられると条件文的な読みが生じ、構成要素の相互作用から当該構文に必然的に生じる「内在的関連性」の意味が顕在化する。“一A”という形式自体が事態Aの「背景化」を促進する傾向を内包し、また、当該形式が「話し手の視点から見た観察結果」の叙述という述べ方に基づくという観点に立てば、当該構文がなぜこのように多様な文を生み出すことになるかについて一定の説明を与えることができる。

【注】

- 1) 「2つの出来事がごく短い時間間隔をおいて継起する」という意味を中心的意味とし、「2つの出来事の継起」と捉えられなくなるにしたがい、段階的に周辺的意味が生じる、と述べた。便宜上、2つのタイプに分類したが、構文的意味を2つ設定したわけではない。また、前後の節の動詞が同じか否かによって分類する呂氏の分類法とも異なる。
- 2) 島津2004b(138-140頁)で、動詞句Aが表す事態が限界的事象である場合、“一”を削除しても文の成立に支障をきたさない例が見られることを観察した。これが本文で述べた現象の存在の根拠となっている。
- 3) VPの前という文法的位置を占める「“一”+動量詞」は基本的に動作の様態を表し、「動作のすばやさ」というのはそこから生じる含みの一つであると考えられる。
- 4) 井上・黄2000は「変化」(木村1997参照)を「状態の出現」と捉え、事象の形としては「動作の出現」と同類のものとみなしている。
- 5) 殷志平1999は“始点体”、李宇明2000は“最近完成体”、陈光2003は“瞬時体”と述べ、いずれもこれをアスペクトであるとする。
- 6) 李宇明1998(110-111頁)は「“一”+量詞+“就”+VP」には“一量就₁VP”と“一量就₂VP”があるとし、“就₁”を純粹な時間副詞、“就₂”を既に語氣副詞に近づいたものだと述べた上で“一动就₂VP”が呂叔湘主编1980の第二項にあたるとする。であるならば、第一項が“一动就₁VP”にあたると推論するのは自然なことであろう。

“一 A 就 B” 形式の構文的意味

- 7) 原文は“瞬接性”。2つの VP 間の時間間隔の短さ、という理解でよいと思われる。
- 8) ここでは“就是”にとりたてられた“两三天”、“50 多天”がそうはならないであろうという否定的見込みのもとにあったのに実際にはそうなった、という含みがあることを意味する。沼田 2000 が指摘する、ともに「意外」を意味する「も₂」と「さえ₁」の「含み：想定・自者—否定/他者—肯定」に相当する。（「自者」と「他者」については注 10) 参照。)
- 9) 大河内 1975 は大多数の副詞が直後に“是”をとることができ、その働きを、話者が客体的事実の外から加える判断の表明であるとする。
- 10) 「自者」と「他者」は沼田氏の一連の論考で用いられる用語である。沼田 2000 では「太郎も学校に来る。」という例を挙げ、次のように説明する。とりたて詞（「も」）がとりたてる文中の要素を自者（「太郎」）、それに端的に対比される自者以外の要素（「太郎以外」）を他者と呼ぶ。
- 11) (26) は殆ど一般常識となっているため、範列的事象がないと感じられるが、例えれば水についての何らかの化学変化を示す現象などが範列的事象となり得る。
- 12) 未然／恒常の事態の叙述の場合は、限定される事態もそれと範列的関係にある他の事態も現実には起っていない。このとき、候補となるどの事態にも「限定」される可能性があり、「限定」機能は十分に発揮される。これに対し、已然の事態の叙述の場合は、現実に起った事態 B と範列的関係にある他の事態は実際に起らなかった事態であり、「限定」機能は十分に発揮されているとは言いがたい。「限定」機能の発揮のされ方の違いが内在的関連性という意味の顕在化の強弱となって現れているのかもしれない。

【主要参考文献】

井田みづほ 2003 「副詞“才”の取り立て機能について—“就”との比較から」『中国語学』第 250 号。

井上優・黃麗華 2000 「否定から見た日本語と中国語のアスペクト」『現代中国語研究』第 1 期。

木村英樹 1997 「‘变化’和‘动作’」『橋本萬太郎記念中国語学論集』内山書店。

沼田善子 2000 「とりたて」『時・否定と取り立て』岩波書店。

大河内康憲 1975 「“是”のムード特性」『大阪外国語大学学報』33 号。（大河内康憲

『中国語の諸相』白帝社、1997。所収)

島津幸子 2004b 「一 A 就 B」形式と「刚 A 就 B」形式』『中国語学』第251号。

坪本篤朗 1998 「文連結の形と意味と語用論」『モダリティと発話行為』研究社出版。

白梅丽 1987 〈现代汉语中“就”和“才”的语义分析〉《中国语文》第5期。

陈光 2003 〈准形态词“一”和现代汉语的瞬时体〉《语言教学与研究》第5期。

李宇明 1998 〈“一量 VP”的语法、语义特点〉《语言教学与研究》第3期。2000 《汉语量范畴研究》华中师范大学出版社。

吕叔湘主编 1980 《现代汉语八百词》商务印书馆。

王弘宇 2001 〈说“一 A 就 C”〉《中国语文》第2期。

邢福义 2001 《汉语复句研究》商务印书馆。

殷志平 1999 〈动词前成分“一”的探讨〉《中国语文》第2期。

张谊生 2000 《现代汉语副词研究》学林出版社。

2004 《现代汉语副词探索》学林出版社。

【引用文献】

[一]: 梁晓声 〈一个红卫兵的自白〉 [我]: 梁晓声 〈我的大学〉

[车]: 谈歌 〈车间〉 [城]: 谈歌 〈城市热风〉

[在]: 方方 〈在我的开始是我的结束〉 [程]: 方方 〈过程〉

[周]: 北村 〈周渔的火车〉 [走]: 冯骥才 〈走进暴风雨〉

以上 亦凡公益图书馆 <http://www.shuku.net> より引用

[活]: 余华 《活着》麦田出版有限公司 1994

[无]: 王朔 〈无人喝采〉 [过]: 王朔 〈过把瘾就死〉

[顽]: 王朔 〈顽主〉 [浮]: 王朔 〈浮出海面〉

[橡]: 王朔 〈橡皮人〉 [是]: 王朔 〈我是你爸爸〉

[动]: 王朔 〈动物凶猛〉 [人]: 王朔 〈人莫予毒〉

以上 《王朔文集》1~4卷华艺出版社

[烦]: 池莉 〈烦恼人生〉 [去]: 池莉 〈一去永不回〉

以上 《太阳出世》长江文艺出版社 1992

[河]: 张贤亮 〈河的子孙〉《1983 中篇小说选第1辑》人民文学出版社 1984

(しまづ さちこ・お茶の水女子大学大学院博士後期課程)